

4.将来都市構造

■将来都市構造の基本的考え方（目指すべき都市構造）

本市は、富士箱根伊豆国立公園に指定された富士山の北麓に広がる傾斜地にあり、南部は富士山、北部に御坂山地、北東部は道志山地に囲まれ、雄大で貴重な自然環境と特色のある歴史文化を有し、国際的・全国的な観光地として発展してきました。また、富士北麓地域の中心となる広域拠点都市としての役割を担ってきました。

本市の地形的特徴として、三方を山に囲まれた中に、コンパクトな市街地が展開していますが、広域的な連携・連絡による交流を育みながら、今後の人口減少・高齢化社会の進行を見据え、その中でも都市の活力を発揮できる持続可能なまちづくりの実現が求められています。

そのためには、本市の恵まれた自然環境を保全するとともに、これまでの成り立ちや発展の過程を踏襲し、築かれてきた都市基盤等の既存ストックや豊かな地域資源等、地域の特性を活かした拠点を明確にするとともに、拠点間の道路・公共交通ネットワークの形成により連携を図る「集約連携型都市構造」の構築を目指します。

■将来都市構造

都市活動の中心であり本市の顔となる「拠点」、都市間や都市内を連携し本市の発展を支える「軸」、最も基本的な土地利用を示す「ゾーン」の3つの要素で、以下の『将来都市構造』を構築します。

【拠点】

① 広域都市拠点

広域的かつ本市の主要な都市機能が立地する拠点

（位置づけ）富士山駅周辺・月江寺駅周辺・市役所周辺・富士見バイパス沿線を含む
中心市街地

② 工業・流通業務拠点

工業・流通業務施設の立地拠点

（位置づけ）明見小佐野川沿岸、下吉田富士見バイパス沿道 等

③ 歴史文化・観光交流拠点

・観光の交流拠点

（位置づけ）富士急ハイランド一帯、リフレふじよしだ一帯、
新倉山浅間公園（忠霊塔）、富士の杜・巡礼の郷公園（鐘山の滝）

・歴史文化の交流拠点

（位置づけ）北口本宮富士浅間神社、国道139号沿道（富士みち）

④ 自然環境活用交流拠点

・環境学習の交流拠点

（位置づけ）富士山科学研究所・生物多様性センター一帯

・体験学習の拠点

（位置づけ）明見湖周辺

・眺望、レクリエーションの拠点

（位置づけ）白糸の滝（富士見台）、杓子山（不動湯含む）、
諏訪の森自然公園（富士パインズパーク）

【軸】

① 広域都市連携軸

広域的な都市間連携を促進する軸

(位置づけ) 東富士五湖道路・中央自動車道、富士急大月線、富士急河口湖線

② 広域連携軸

広域のかつ都市内の連携を促進する軸

(位置づけ) 富士見バイパス、国道 137 号、国道 138 号、国道 139 号、
県道山中湖忍野富士吉田線の一部、県道富士吉田西桂線 等

③ 広域環境交流軸

諏訪の森自然公園（富士パインズパーク）、リフレふじよしだ等の広域的な交流拠点間を結ぶ交流軸

(位置づけ) (仮) 南部東西幹線 1 号

④ 都市内連携軸

広域的な連携軸を補完する、都市内の交流軸

(位置づけ) 中央通り、吉田本通り、昭和通り線、県道山中湖忍野富士吉田線の一部、
月江寺大明見線 等

⑤ 観光交流歩行軸

富士山駅から吉田口登山道等を結ぶ、徒歩による観光の交流軸

(位置づけ) 富士山駅～北口本宮富士浅間神社～新屋、吉田口登山道沿い、
下吉田駅～富士山駅、下吉田駅～新倉山浅間公園

【ゾーン】

① 山林自然環境保全ゾーン

山林の良好な自然環境を保全するゾーン

(位置づけ) 富士山の国立公園特別地域等、杓子山、三ツ峠の保安林

② 自然環境保全・活用ゾーン

自然環境との調和を図りながら自然環境を生かした交流施設や教育・研究施設などを誘導するゾーン

(位置づけ) 東富士五湖道路沿線（国立公園普通地域等）

③ 農地ゾーン

良好な農業生産環境を維持・保全するゾーン

(位置づけ) 上記のゾーンを除く用途白地地域

④ 市街地・集落ゾーン

中心市街地の外縁部に位置し、周辺の自然環境、景観に配慮した市街地及び集落地

(位置づけ) 用途地域内の市街地、用途地域外の集落地 等

⑤ 中心市街地ゾーン（広域拠点エリア）

市内各地区ならびに北麓地域の広域拠点、市外からの来訪者の玄関口として各種都市機能が集約する中心市街地

(位置づけ) 富士急行線（富士山駅～下吉田駅）、都市計画道路（赤坂小明見線、
富士見通り線、赤坂線）に囲まれた既成市街地（広域拠点エリア）

『都市シンボル軸』の位置づけ

以上の都市構造の中でも、新倉山浅間公園～下吉田駅～富士山駅～御師のまち～北口本宮富士浅間神社のラインは、『富士みち』としてかつての富士山信仰の歴史を今に伝え、特に富士山の世界文化遺産登録後、本市の特徴を象徴的に伝え、市民の拠り所としての重要性を増しています。

このラインを、「都市シンボル軸」と位置づけ、それにふさわしい魅力要素の立地誘導、再編整備を図り、将来にわたって人の流動、賑わい形成の中心軸となることを目指していきます。

●将来都市構造図

